

令和 4 年度 南区地域福祉計画アクションプラン地区別計画 評価一覧表



南区地域福祉アクションプラン 令和4年度地区別計画評価一覧

地区名	令和4年度推進計画			評価							
	スローガン	推進目標	令和4年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取り組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
新飯田	笑顔いっぱい「おたがいさまらて」と心が通い合う新飯田	支え合いのしくみづくり	・昨年新型コロナウイルスのまん延により開催できなかった支え合いのしくみづくり講演会を開催、地域の実態把握に繋げていく。	・支え合いのしくみづくり講演会 7/31 開催 ・地区社協の在宅見守り訪問や緊急キット配布事業を通した顔の見える関係づくり	・災害時の取り組みは次年度以降も継続して取り組んでいく ・コロナ禍も収束に向かうので、できることから地域活動を再開する ・各自治会にもアクションプランや支え合いの必要性を説明する機会を設け、連携の基盤をつくる必要がある	A	A	A	A	A	A
		地域活動への住民の参加推進	・昨年度白南中学校のアクションプランを使った地域課題を考える授業での新飯田地区について提案のあった取組みについて実施を検討。分野別の提案事業中、新飯田地区に絞った内容をコミ協事業として検討していきたい。	・お寺で遊ぼう!・楽しいクリスマス、といった地区社協活動の多世代交流会を通した地域住民の参加促進 ・新飯田まつりや3年ぶり開催の小中と地域の運動会で地域の世代間交流の機会をつくった							
		防災・減災活動への取組み	・自主防災会では、コロナ禍により内容を限定しつつ防災訓練を行い、地域住民の防災意識を高める。自治会では必要な方に緊急情報キットを区社協と連携し配布する。	・新飯田地区防災訓練を7/3開催							
		地域のPR									
茨曽根	笑顔で支えあう桃の花咲く茨曽根	支え合いのしくみづくり	・現在活動中の地域の茶の間活動の支援、地域の茶の間のない地域での新たな活動の発足支援 ・地域の茶の間活動等を通して担い手育成、介護予防体操や茨曽根百歳体操を普及	・庚地域に新規地域の茶の間開設 ・白根高校協働事業 どんと焼きアイスキャンドルの実施(茶の間の参加者も協力)	・地域福祉アクションプランにより事業を進めていることの周知が必要 ・次世代の活動推進役の育成を行う必要 ・年中忙しい地域柄であるが、今後は地域活動の担い手育成をしていく必要がある ・地域の茶の間のさらなる推進 ・防災アンケートを生かして自治会での安否確認体制づくりを行う必要がある ・地域で活躍する防災士を育成する ・子ども達の自己肯定感を育てるため、子ども達の主体的な取り組みの支援を継続する必要がある	A	A	A	A	A	A
		子どもたちを地域で育てる取組み	・下茨の畑づくりなど地域活動での子どもたちの参加を企画する ・白南中学校での地域福祉アクションプランを使った地域課題検討の総合学習へ協力していく	・茨曽根フェスティバルで子どもたちの演劇上演・子どもバンド演奏 ・白南中学校2年生と地域での地域課題検討と提案事業立案 ・老人クラブと子どもたちの畑の交流							
		防災・減災の取組み	・各自治会における災害時の対策検討など、防災の啓発活動の実施 ・災害時緊急連絡網の作成と試行 ・先進自治会への視察見学、地域内での報告など	・10月地区全域全世帯対象防災アンケート実施・地域全体訓練 ・モデル自治会の防災研修と視察研修 ・下茨自治会による災害時安否確認訪問訓練実施							
		情報発信	・コミ協だよりを通じた地域福祉アクションプランの取り組み情報の発信を行う	・コミ協だよりでの発信と生活センターへの活動事業写真等の掲示							
庄瀬	声かけあ会話しあう助け合う沢山の合(愛)がある庄瀬	支え合いのしくみづくり	・しなの園車両を活用した移動のための支援を、生活支援サービスを立ち上げ、令和5年度中に補助金の申請を行えるようにする ・コロナ禍で集まる活動が困難な中、世代間交流や防災訓練など事業を通して世帯訪問を行い、聞き取り調査や要支援予備軍など自治会ごとに見ていくよう進める。情報キットや消火器の設置なども進める。	・生活支援サービスの立ち上げに向けて、ニーズアンケート調査実施 ・農村公園祭りや文化祭、よさこいなど地区社協事業実施	・ニーズ調査の結果から、生活支援の立ち上げを進めていく。 ・コロナ禍であるが、地域の人たち、世代間の関係が希薄にならないよう、事業を通して顔の見える関係を築いていく。 ・8050 やひきこもり、不登校等課題が出てきているため、関係機関と連携をしていきたい。	A	A	A	A	A	A

地区名	令和4年度推進計画			評価							
	スローガン	推進目標	令和4年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取り組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
		若い世代との交流推進	・白南中学校生が昨年度、地域福祉アクションプランについて考えた地域づくりアイデアを、中学生と地域でも検討、実現化する	・白南中学校生徒のアイデアを活用し、お花見ウォーキングまつりを実施	今年度の中学生のアイデアを来年度のコミ協事業に活かす						
		防災・減災活動への取組み	・防災訓練を行う中で戸別訪問を行い、顔の見える地域づくりに努める	・民生委員や自治会長、消防団と高齢者見守り訪問実施	消防団の人数が少なく、若い世代の育成が必要						
		組織強化	・保健会脱退後の庄瀬地区の健康増進について検討を重ねる。敬老事業については、健康福祉課と打ち合わせしながら進める。アクションプランロゴマークでアクションプランの取組みPRする	・お花見ウォーキングまつり ・茶の間で3B体操実施 ・オンラインウォーキング講座 ・アクションプランの引継ぎ	保健会組織はなくなったが、保健推進員を立ち上げた。担い手育成も課題となる。自治会長交代する際に、アクションプランの引継ぎも行う。ロゴマークも好評で引継ぎがスムーズであるため、今後も継続していく。						
小林	声かけ合い心をつなぐ 小林地区	支え合いのしくみづくり	・お助け隊こばやしの推進（買い物付き添い支援の利用促進） チラシによる周知だけでなく、民生委員活動など、一人ひとりの声を丁寧に聞く工夫をする 自治会ごとの課題を拾えるよう、困っている人へのそれとなく気づかえる自治会の意識啓発 ・担い手の増員 移動支援の運転をしてくれる方が現在2名。 6/24 に加茂タクシーの講習を受けに行く予定であるが、講習会参加者が増えてくれるとよい。ボランティアの育成が課題となっている	・6月から2回/月の買い物移動支援をスタート 6～2月で計10回の利用があった ・お助け隊こばやしの推進を行った 2月までの利用回数は28回 ・地区社協の見守り活動事業の継続実施 年4回の在宅福祉対象者への訪問活動	・お助け隊こばやしについて登録しているメンバーができるだけ多く活躍できる場をつくる必要がある 支援する側も高齢化、若い人までの重層的な支援者育成を検討する必要がある ・地域福祉課題を地域で発見できる仕組みを作る必要がある ・定期的な専門職・関係機関との情報共有の場をつくることで見逃さない地域づくりにつながる ・障がい者の理解促進をはかる活動がコロナの状況下でできない年度が続いたが、実施を検討する必要がある	A	A	A	A	A	A
		子どもの健やかな成長を育む		・子ども見守り隊、ひまわりクラブ運営の継続							
		防災・減災の取組み		・小林地区防災マップ A4 冊子版を全戸配布							
		情報発信	・自治会長への啓発・説明 アクションプランの説明や支え合いのしくみづくりの説明により、将来必要となるかもしれないという意識は持ってもらえるので、地道に伝えていくことに取り組む	・新任自治会長の理解促進のため小林自治会協議会での地域福祉アクションプランと支え合いのしくみづくり説明会を実施（7月）							
白井	「やろってば！」笑顔で仲良く 白井地区	既存組織を大切に育て連携する 既存事業を活発に 送迎を含め誰もが	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">         ① アクションプラン及び          ② 支え合いのしくみづくり          ③ 勉強会を行う          ④ 上浦自治会の中で自主          ⑤ 防災講座を行えるよう検討する       </div>	・食生活改善推進委員の講習会で、支え合いのしくみづくりと地域福祉アクションプランの説明会を実施 ・地域の茶の間こむすびでのクリスマス会実施により、地域活動者の参加とバックアップ促進	・白井中学と連携した多世代交流会については、地域の一般住民の参加を促すことで交流の効果がさらに上がると思われる ・月1茶の間「こころむすび」の活動を活発化することで地域の活動拠点になると良い ・防災講座については次年度の防災訓練の際にできるよう検討する ・地域の役員が一年交代で関心を高めることが難しいが、引き続き啓発を継続していく	A	A	A	A	A	A



地区名	令和4年度推進計画				評価						
	スローガン	推進目標	令和4年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取り組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
		参加できる検討 事業者も地区の一員・交流積極的に	<p>①アクションプラン及び支え合いのしくみづくり勉強会を行う</p> <p>②上浦自治会の中で自主防災講座を行えるよう検討する</p>	・白井地区多世代交流会の実施 白井中学校と地域住民、地域包括支援センターしろね北、南区社協でフロアカーリングと認知症講座を開催	必要がある						
	地区	あいさつ運動を実施する									
		ボランティアや地区活動に積極参加									
		行事や活動の情報提供・PR									
		ボランティアや地区活動を理解し関心をもてる									
大郷	なじらね～？と声をかけあう大郷地区	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会長会議にて地区社協見守り活動を進めて(2月開催の自治会長会議にて、社協より地域のつながりや支え合いが大切であることを伝えていく)</li> <li>・「助けあいゲーム」でニーズのキャッチ大郷地区の役員で「助けあいカードゲーム」を実施、大郷地区の課題抽出を行う</li> <li>12月の自治会長の集まる場や地域の茶の間でも行い、地域課題について共有していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中大郷地域の茶の間開催、助け合いゲームでニーズキャッチを行った</li> <li>・大郷地区コミ協理事会でも助け合いゲームを実施した</li> <li>・2月「なじらね～の集い」を開催、地域全体での交流の機会づくりの必要性を啓発した</li> <li>・地区社協事業：高齢者訪問事業で顔の見える関係づくり(配食サービスやホッカイロ配布)、</li> <li>・2月自治会長会議で地域福祉アクションプランと支え合いのしくみづくりの説明行う</li> <li>・1月心配な人の把握アンケートを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集いの場や茶の間については、茶の間に行く足の課題や積極的な声かけが必要</li> <li>・高齢者名簿を基に訪問配布事業を行うが、世帯主と名簿登録者が異なる、行政からの名簿とタイムラグがあるなど時期の検討や確認作業に課題がある</li> <li>・独居の40～60代が増えていて、近所付き合いが全くない方もいるため、今後の声かけやつながりづくりが課題となる</li> <li>・若い世代との交流が希薄で、参加者や役員もいつも同じ顔ぶれである。担い手育成が必要</li> </ul>	A	A	A	A	B	A
		担い手の育成									
		災害への取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災講座を鷲巻地区と合同で行うとともに、具体的に自治会ごとで動くことができるよう、地域のつながりを強化していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月鷲巻地区と合同防災講座の開催</li> </ul>							
鷲巻	全員集合！鷲巻地区～笑顔の和をひろげよう～	支え合いのしくみづくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティカフェわしのきの開催(隔月1回)</li> <li>・地区社協による高齢者見守り配食サービスの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間交流では農繁期の活動では参加者が固定されがちとなる。地域にあった方法を検討し継続していく必要がある</li> <li>・コロナの状況下でできなかった地域活動がある。開催方法を検討し、地域のつながりのきっかけとなる活動事業を行う</li> <li>・配食サービスや見守り活動を継続することで地域の状況把握に努め、新たな活動事業につなげるため継続して取り組む必要がある</li> </ul>	A	A	A	B	A	A
		交流の機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業を通じて多世代交流等地域交流を継続して行っていく</li> <li>・映画鑑賞会は、開催方法を検討して実施できるように工夫する</li> <li>・コミュニティカフェわしのきの活用隔月、様々な内容で開催していく。親子だけで</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園と地域での世代間交流を通年で実施した</li> <li>・コミュニティカフェわしのきで様々なテーマの活動を実施、地域の方と親子の参加があった</li> </ul>							

地区名	令和4年度推進計画				評価						
	スローガン	推進目標	令和4年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取り組んでの課題と次年度引き継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
			なく、高齢者との関わり方も検討していく。		ある ・災害を想定した実践的な訓練を重ね、自治会・地域全体で連携できるようにする必要がある						
		防災・減災への取組み	・地区防災訓練の継続的な取組みを行っていく→大郷地区と合同防災学習を実施。自治防災部会と連携して、避難訓練や研修の実施	・大郷地区と合同の防災講座開催 ・自主防災による防災訓練の実施							
		人材育成・人材確保									
		安心・安全な地域づくりの推進									
根岸	楽しく暮らせる住みよい根岸	支え合いのしくみづくり 防災・減災への取組み	・見守り活動での顔の見える関係づくりが災害時強い地域づくりをつくる 敬老会を集まる形から訪問活動へ切り替え⇒地区内の75歳以上の方を把握でき、民生委員と自治会長で共有も可能になる ・地区社協の一人暮らしへの訪問活動・安心箱事業も「顔を見に行く」活動としたい ・地域住民の交流活動の継続 子どもたちのふるさとの思い出になる活動として「あやめ祭り」に代わるイベント検討する	・75歳以上高齢者に関するアンケート調査実施 地区内75歳以上者510名を把握、希望者へ訪問活動を実施 ・自主防災会打合せ会議にて地域福祉アクションプランと支え合いのしくみづくりの説明会 ・12月一人暮らし高齢者への訪問活動	・コロナの状況下、人が集まることへの意識の差が大きくなっている。正しい感染予防の知識啓発が必要である ・困っていても声を出せない人や困りごとをどこへ相談すれば良いか分からない住民を地域で見つけてつなげる仕組みがあると良い ・住民同士が顔が分かり声をかけやすくなるためにも、あやめ祭りに代わる地区全体の世代間交流事業が必要である	A	A	A	A	A	A
		防災・減災への取組み	・防災備品に関する準備活動として、進めている自治会の取組みを他自治会へも周知していく	・10月防災訓練の開催、避難行動要支援者世帯へ自治会が全て顔を出して確認、顔の見える関係づくりを行った							
		若い世代の参画・交流できる場の推進		・4地区合同どんと焼きへの若い世代の参画 ・ひまわりクラブへのおもちゃやお金の教育に関する本の提供							
		人材育成・人材確保	・子どもの福祉教育での認知症の理解促進 ⇒根岸小学校の福祉教育の中で認知症サポーター養成講座などを提案する	・1月根岸小学校福祉教育にて認知症サポーター養成講座実施							
		安心・安全な地域づくりの推進									
大通	今つながよう!大通に安心と思いやりのネットワークを!	地域活動への住民の参画推進	・大通地域生活センターで活動する団体や小学校のボランティアなど、地域の小さな単位のつながりづくりを地道に行っていく ・地域活動を通して地域のつながりを子どもたちに見せていくことで、地域の絆を継承する ・老人クラブでは「ポッチャ」などの新しいスポーツをきっかけにして仲間づくりを進める	・5月子ども食堂打合せ・研修会 ・子ども防災教室・地域センター花植え活動 ・ちょこっとボランティアの発掘	・役員ではない一般の住民の方に相談先(包括支援センターなど)とのつながりの機会をつくること ・徘徊ネットワークをいざという時に生きるシステムにしていく必要がある ・ボランティアのすそ野を広げる地道な取り組みを継続し、担い手を増やす必要がある ・地域福祉アクションプランについて、自治会や地域住民に知ってもらおう働きかけがもっと必要である	A	A	A	B	B	A
		支え合いのしくみづくり	・思いやりネットの活動継続。ニーズを見ながら必要なサービスの検討を続ける ・認知症研修会を地区住民対象に実施、見守	・思いやりネットの継続実施 ・10月地域住民対象認知症研修会開催 ・大通西ふれあいネットワークの自治会への説							

地区名	令和4年度推進計画			評価								
	スローガン	推進目標	令和4年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取り組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR	
			りの目がある地域を目指す	明会、会員への研修会の実施 ・徘徊ネットワークのチラシを自治会長へ配布								
		防災・減災の取組み	・避難行動要支援者の方への地域での避難支援を考える ・防災講座を開催、防災マップを再確認する	・4月自主防災主催で防災と支え合いのしくみづくりのつながり説明・啓発 ・5月大通安心安全会議にて防犯防災の啓発 ・6月大通防災講座の開催								
		つながりのある地域づくり	・包括支援センターと自治会のつながりをつくるため、自治会長の集まりで包括支援センターの講話を聴く機会を作る ・敬老会で高齢者の相談先としての包括支援センターの周知を行う ・地区社協の実施事業の拡充、子ども食堂の実施の検討	・地区社協事業の実施 はじめまして赤ちゃん!事業、安心袋配布、障がい者理解のための講演会、高齢者見守り事業、大通ふれあいの集い ・敬老会はできなかったが包括支援センターの周知を認知症研修会で行った ・子ども食堂実施の検討を継続した								
		情報発信	・広報誌やホームページを活用した地域の人に分かりやすい情報発信を継続していく	・徘徊ネットワークチラシ配布、広報誌を活用した情報発信の継続								
白根	広げよう地域の輪 風の舞うまちしろね	支え合いのしくみづくり	・支え合いのしくみづくりに関して、SCと情報交換し、白根地区で取り組めるものを検討していく ・民生委員と自治会長の情報共有及び民生委員のPR活動(12月ごろ)	白根お互い様支援隊の立ち上げ R4.12月より白根お互い様支援隊開始 R5.1月除雪について相談あり(3件)	生活支援が立ち上がったが、組織体制づくりを次年度取り組みたい。 併せてボランティアの育成もしていき、将来的に自治会ごとで助けあいができるよう進めていく。							
		災害への取組み	・10/30(日)防災講座を通じて、若手防災士の育成を進める。	南部北部中部合同防災訓練実施	コロナ禍であったため、防災訓練が役員に限られた。災害はいつ起こるか分からないため、今後は自主防災組織も強化していきたい。 併せて担い手育成も継続していく。	A	A	A	B	A	B	
		担い手の育成	・災害への取り組みを通して、次世代の育成を進める									
		白根児童センターと地域とのふれあい	・子育てできる環境づくりでは、学校と情報交換を検討していく。		ヤングケアラーや不登校等、社会的課題がある中、地域で子育てできる体制を考えていく。							
味方	なじらねばかい～ねいきいきふれあいささえあい味方地区	支え合いのしくみづくり	・見守り訪問活動について →88歳の米寿の方対象、民生委員と連携しての見守り訪問を実施。 ・健康寿命延伸への取組みについて →南区全域で実施している「はかろう体重!あるこう南区!大作戦」のような健康づくりへの取り組み内容も今後模索していく。	・支え合いのしくみづくり会議開催(ほぼ毎月) ・地域の茶の間活動が活発になるよう、支え合いのしくみづくり推進員が参加して課題を把握した ・敬老会に参加できない方への見守り訪問活動を行った	敬老会は実行委員会や企画委員会など中心となることを検討し、今年度の課題を改善できるように開催を考えていく ・今年度と同様に敬老会に来られない米寿の方には見守り訪問活動を実施する ・支え合いのしくみづくりについては、味方地区に合った取り組みを関係者と連携して作っていく	A	A	A	A	A	A	
		地域共生社会の実現										
		地域の中での交流活動の推進	・多世代交流について →地区のコミ協や社協、地域包括と連携しながら地域の茶の間を活用して交流を図る。フレイルや自立支援を意識した体験をしてもら	・「よしえっ子」吉江のお茶の間を会場に、コミ協や社協、包括の協力を得て「高齢者と子どもの学び合い」をテーマに多世代交流を実施 ・味方全体での敬老会を開催し、子どもと高齢								

地区名	令和4年度推進計画			評価							
	スローガン	推進目標	令和4年度の目標と取組み	取組んだ活動事業	取り組んでの課題と次年度引継ぎ事項	住民参加	協議の場づくり	関係機関団体との連携協働	つながりひろがり	住民の理解促進	周知PR
			える内容を考えていく。	者の交流の機会をつくった							
		組織強化									
		PR活動									
月湯	あいさつ 声かけ 思いやり つながり ふっとつ 獅子の里	支え合いのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康寿命延伸： 地域の茶の間での介護予防推進（保健師の活用）、高齢ますます元気教室参加の促し</li> <li>ボランティア活動の推進： 各自治会でのボランティア養成講座開催</li> <li>認知症や障がい者理解の促進： 小学4年生福祉教育、小中学校保護者に学校を介した福祉学習、中学校への働きかけ</li> <li>挨拶、声かけ、見守り活動： あいさつ運動（民児協で実施）、中学校へも実施の働きかけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支え合いのしくみづくり会議構成員である組織や団体へのアンケート実施、活動のアイデアを集めた</li> <li>11月「福祉と健康の集い」開催</li> <li>12月安心箱支給事業による見守り訪問</li> <li>地域の茶の間活動の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織や団体の担い手不足・行事参加者の減少</li> <li>地域における組織や団体、個人の役割を明確にする必要がある</li> <li>地域の茶の間の参加者の減少や運営方法の課題</li> <li>担い手の交代などがある地域の組織・団体に対し、地域福祉活動を継続していくためにわかりやすい説明の工夫が必要</li> <li>防災を接点に小中学校での防災教育の推進ができると良い</li> <li>子育て世代が地域福祉の理解に関心を持つ取り組みの工夫が必要</li> </ul>						
		地域共生社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもりや困っている人を支える</li> <li>民生委員と自治会が連携して情報収集</li> <li>小学校での、保護者への困りごと情報収集</li> </ul>								
		地域活動への住民の参画推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験、交流機会の創出：芸能祭に小中学生が参画する等</li> <li>デイサービスで交流行事</li> <li>ボランティア育成： 南天の会の新たな活動…公民館等での活躍</li> <li>地域の茶の間スタッフ同士の交流会</li> <li>伝統芸能角兵衛獅子伝承： 保育園、小学校での体験版や募集</li> <li>世代間交流事業： 公民館事業時に社協とコラボする、ボラ団体周知も兼ね、南天の会と協力しあう</li> <li>あじっこ職業体験へ参加（福祉施設以外の体験の工夫、地域の茶の間で世代間交流等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月月湯中の福祉教育でブラインドサッカーを地区社協役員と共に行う</li> <li>曲の茶の間での高齢者と子どもの学び合い交流会（まがりっ子）</li> </ul>	A	A	A	A	A	A	
		情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の活動PR： コミ協通信や支え合いしくみづくり広報作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミ協通信や地区社協だよりでの情報発信</li> </ul>							